

市民力かわら版



「やいたの夏2014」 この夏ふるさと矢板は熱かった

皆さん、今までとは違う夏の祭りのポスターが目に入りましたか？

八月は、熱い、あつい、四大イベントが実施され大いに盛り上がった夏でした。

「この夏、ふるさと矢板が熱くなる」をキャッチフレーズに、八月に予定されていた市内四つのイベントをまとめて「やいたの夏2014」として行われたこの試みは、さまざまな思い出を市民に残してくれました。

「やいたの夏2014」実行委員会事務局の高瀬氏にお話を伺いました。

■「やいたの夏2014」としたのは？

まず、今年は何となくまつりをお盆に行いたいという事で八月十六日に決まりました。その際、今年から自転車レース「八方ヶ原ヒルクライムレース」が新しく開催され、八月は毎週イベントが予定される事になるので、まとめてPRしていくという案が出され

ました。

そこで、たかはらやまトライアスロン、八方ヶ原ヒルクライムレース、ふるさとまつり、あんどんまつりの関係者を集めての連絡会議を開き、

「やいたの夏2014」実行委員会が結成されました。おのこの担当者が集まり企画運営の内容を決めていきま

したが、その中で、各イベント間の連携をはかり、相互の共栄を目的としてアイデアを出し合いました。歌うまコンテスト、スタン



トライアスロンで始まった矢板の夏

プラリー、ココマチくじ引き抽選会など、矢板市が一丸となつて、頑張っていますよ！

■連携した効果

各種イベントを一枚のポスターにまとめ周知徹底させることで経費が節減でき、その分、栃ノリのコマースナルや、今までできなかったさくら、大田原、塩谷にチラシを入れることができました。

結果、それぞれのイベントの知名度が上がったと思います。特にあんどんまつりは、

矢板に四つのイベントがあると知らしめた意味は大きいと思います。

■ボランティアが大活躍！

たかはらやまトライアスロンは婦人会など約二〇〇人のボランティアが支えてくれていて、ボランティアなしには成立しません。他のイベントも多くのボランティアが支えてくれます。

ふるさとまつりでは、中高

生にもイベントスタッフとして参加してもらうために、具体的な仕事と時間を示した募集チラシを作って学校などに配布しました。その効果が予想以上の参加がありました。ボランティアしながらイベントも楽しんでくれたと思います。

■若い力で斬新さを

今回の「やいたの夏2014」は、青年が主体の祭り運営でした。若い人が中心になって企画を進めたことで、子どもや若い人が多く集まる、今までにない目新しいものになったと思います。

(M・W、T・M)



ジバニャンとの記念撮影には長蛇の列が